NPO法人日本防災士会
奈　良　県　支　部
　支部長　植　村　信　吉　様

熊本県支部　宮下正一

NO、1

令和２年７月熊本豪雨災害について（感謝）

　拝啓、季節も彼岸に入りまして、日増しに秋が深まる日々と成りまして、元気でお過ごしのこととお慶び申し上げます。
今回の熊本県南部地区（人吉市・球磨郡・相良村等）で大雨豪雨被害に合いまして、早々に沢山の支援物資を支援して頂き有難う御座いました。
「もっと早くお礼のお便りを出さなければ」と思いつつ今日に成ってしまいました。
本当に植村支部長には、衷心より心から感謝致します。
防災士に成って１０数年になりますが、貴方のような自然災害に対する深い理解と防災活動に卒践して取り組まれる姿勢には常々感謝し、頭が下がります。
今回も熊本県地区の「一級河川球磨川」流域で大雨豪雨災害が突然発生して、甚大な物的・人的被害を受けまして、流域住民は大雨の多さや被害の大きさに落胆して、恐怖に戦き身を寄せ合って避難場所（８５１名）で過ごされています。
これまでに、熊本県支部会員では被災地を２回程度慰問致しまして、１回目は植村支部長から頂いた沢山の男性用トランクス・靴下等を用意しまして、熊本県支部で準備した「飲料水・男女肌着・男女下着・タオル・マスク・手洗い用ジェルを車両に

積み込んで、防災士４名で球磨郡球磨村渡集落に３時間掛けて支援活動に向かいました。
地元では、同じ防災士と待ち合わせ致しまして、被災地を案内して貰いましたが、JR渡駅舎は１階の天井まで濁流が流れ込んだ跡があり、待合室の天井からは、冷暖房用の壁に取りつかる資材が剥がれ垂れ下がり、見るも無残な姿に成っていました。勿論駅舎内の駅長室、事務所内の机・椅子・関係書類・黒板・キップ等は泥まみれになり散乱しており災害の惨さを見て、再度愕然としました。
本当に災害は何度経験しても、その無常で悲惨さを見まして、自然災害の怖さを感じて言葉を失ってしまいます。
又、皆さんもTV等のニュースでお存じの特別養護老人ホーム「千寿園」を訪ね入所者１４名の犠牲者が居られましたので、防災士全員で「黙禱」し冥福を祈りまして、「合掌」してきました。
その後支援物資受け取り場所の「さくらドーム」を慰問しまして、球磨村村長松谷様にお会いまして「災害に対する見舞の言葉」を丁寧に伝え、災害支援対策室に向かい、準備していました災害用支援物資を手渡しました。
その後もう一つの災害被災地でる、白石防災士も「球磨川」河川沿いから５０ｍの隣接地（人吉市）で生活しておりまして、床上浸水の被害を受けて畳・TV、冷蔵庫・洗濯機等の家財道具が使い物にならず唖然としていました。
大雨豪雨災害から暫く経ちまして、少しは落ち着いている様子が見えましたので、どの位の「水位

だったのか」と尋ねましてら、地上から「Ｈ＝２，３０ｃｍ迄の高さまで来た」と言って、大雨豪雨災害の怖さを語ってくれました。
白石防災士の声掛けで、近所の人たちが５～６人が集まり語り会っている中に、お母さんが抱っこされていた乳幼児が避難されていましたので、明治ほほえみらくらくミルク（２４０ｍｍ×２４缶）を１箱支援品として差し上げたところ、大喜びされていました。
又、被害状況を訪ねますと、庭先に置いていた自転車や乗用車等は、「球磨川の濁流に流されて何処にあるのか、全然わかない」と言い、「命が助っただけでいいです」と言われていました。
そこでも沢山の支援物資（タオル・飲料水・男女肌着・男女靴下・手洗い用ジェル・土のう袋１００枚・殻入れ袋３０枚を提供致しまして、「これに負けずに生きて下さい」と伝えました。
このような災害大国で、毎年のように日本中のどこかで自然災害が発生していますので、ボランティア活動を継続して行きたいと思っています。
今後共、健康には留意されまして元気でお過ごし下さい。
ここに活動状況の写真を添付しまして、ご報告と致します。

敬　具

令和２年　9月26日　記